



四国森林管理局

# 徳島森林管理署 とくしま通信

## 来年度の業務研究に向けスタートしました

徳島森林管理署では、職員が日頃の業務を通じた業務研究に取り組み、毎年2月に四国森林管理局において発表しています。徳島森林管理署では、平成30年度に取り組む課題として、治山ダムの施工時に使用する型枠を、治山ダムができあがった後も、そのまま残置させ、周囲の環境に配慮した治山ダムに仕上げていくこととし、その際、残置する型枠に使用していく木材を地域の森林から伐採・搬出された間伐材を用いて加工することで、狭いながらも地域における「森林サイクル」を確立させ、**地域材の見える化**と地域の**間伐材使用による地域振興**について検証することとしています。来年2月の発表に向け、現地での調査などに着手しました。



残置させた型枠 (イメージ)



見える化対象の民有林



民有林所有者への取材



谷止工 (イメージ (徳島署))

## 砂防事業と治山事業との調整を行いました

1月31日、徳島県庁会議室において、**砂防・治山地方連絡調整会議**が行われました。この会議は、毎年度この時期に開催しているもので、徳島県、国交省四国地方整備局と四国森林管理局・徳島署が次年度事業について調整を図り、それぞれの事業が効果的に施工されることを目的としています。会議の冒頭、徳島県砂防防災課長から「県土の強靱化が急務。そのため関係機関が連携・調整を図ることは重要。」との挨拶の後、徳島署、徳島県、四国地方整備局の担当者による事業地の確認など調整を行いました。徳島署では、このように関係機関との調整を行っていくことで効果的で計画的な治山・地すべり事業の実行を図っていきます。



四国局担当官の概要説明



徳島署担当者の説明



徳島県森林整備課との調整



図上で事業地を確認しました

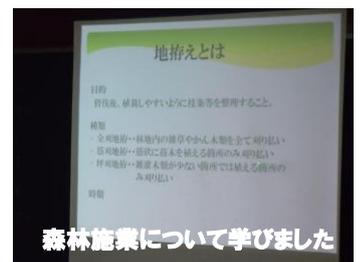
## 那賀高校生への森林環境教育を行いました

徳島県立那賀高校「森林クリエイト科」1年生への今年3回目となる森林環境教育を1月29日に行いました。3回目のテーマは「**森林施業**」で、立木を伐採し、加工して、私たち消費者に柱や板など形を変えて届くまで、最低でも50年の時間が必要であること、その多くは、人の力によって手入れが行われていることについて、写真やイラストなどを用いて、分かりやすく説明しました。

先人たちが機械化されていない昔、手挽き鋸で大木を伐採・造材している写真や、木馬で運材している写真、道具などを実際に生徒に観てもらい、機械化が進む林業であっても、森林整備、木材利用の重要性は変わらないことについて学びました。



真剣に聴く生徒たち



森林施業について学びました



職員が鋸術です



道具について学ぶ生徒



徳島県庁舎

四国森林管理局 徳島森林管理署  
 TEL:088-637-1230 / FAX:088-666-1818  
 〒771-0117 徳島県徳島市川内町鶴島239-1



国民の森林・国有林